

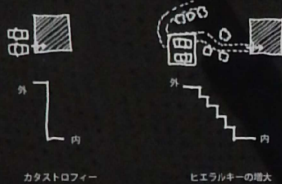
厩のある家



シームレスにつながる景色を求めて ～ソフトの提案～

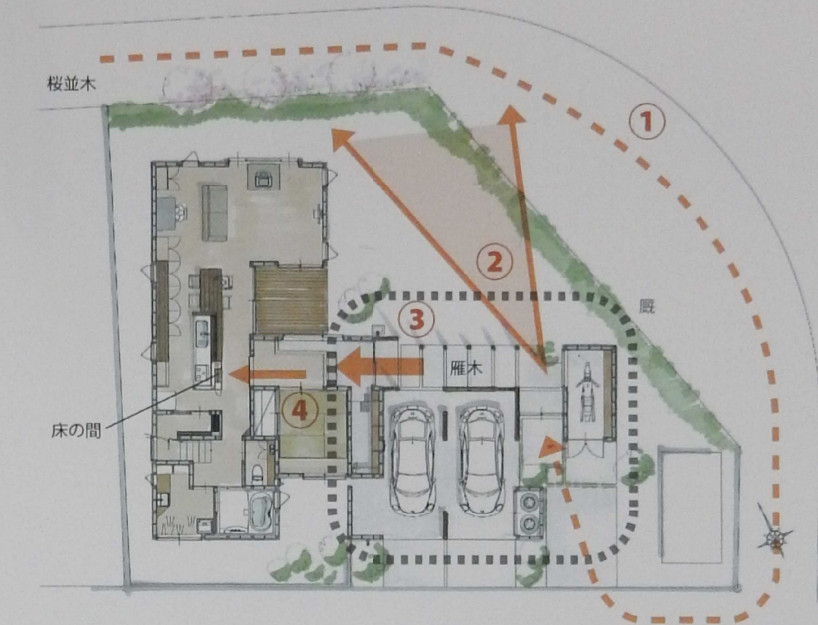
まち中を車で走っていると、駐車場のすぐ脇に玄関ドアのある家を見かけます。外部空間からすぐに内部空間に入ってしまうシーンの変化は気持ちのゆとりを無くしてしまい、「外」から「内」への急激な展開はカストロフィーを招いてしまう。

ふと「外」と「内」の中間領域の豊かさを追求することで、「外」の余韻を楽しみながら段階的に「内」に移動することができるのではないかと考えた。「外」と「内」の中間領域に様々な仕掛けをすることで徐々にスケールダウンしながらシームレスにシーンが連続していく、ヒエラルキーの増大を試みたい。



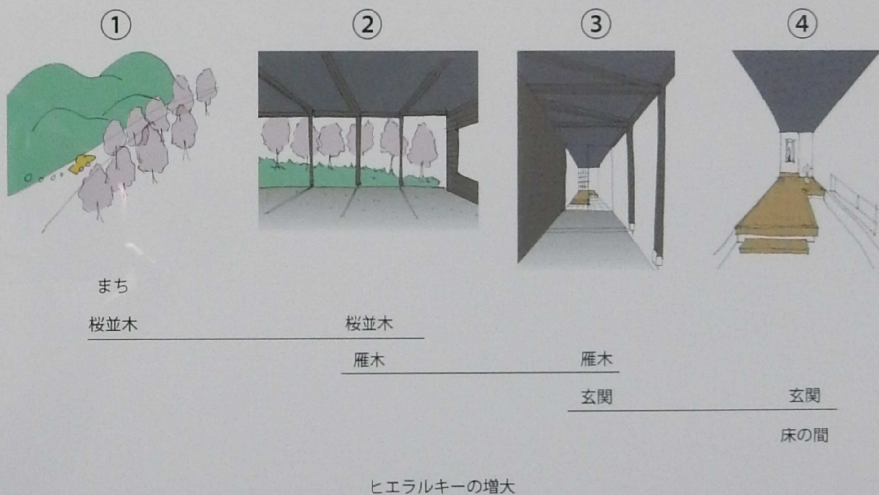
「厩」様式に見るL型プラン ～ハードの提案～

一方、昔の人たちは移動に馬を頼っていた。現代は文明が発達し、車・電車・飛行機とその手段は飛躍的な変遷を遂げている。車とバイクを大事にされるクライアントは車のあり方について考えるきっかけとなった。また計画地の新潟県加茂市は越後の小京都とも言われている。古くから京都との関わりがあった事や、中心街の落ち着いた町並みがその所以である。ここには現代と歴史が溶け合う余地がある。車庫と歴史の融合、それが計画の羅針盤となった。現代の車・バイクと昔に利用されていた馬、馬を飼っていた小堀が昔の厩なら車庫は現代版の厩である。厩の様式であるL型のプラン引用、それが相応しいと考えた。



4つのViewがシームレスにつながる

『外部空間』から『内部空間』までの動線：Viewの要素がシームレスに重なっていくことで豊かな住まい空間の提案



景色を楽しむ周辺環境

敷地北側に広がる山と桜並木を楽しみながら自宅の敷地へとつながるアプローチ



景観が混ざり合う雁木

車を駐車してから玄関へ向う雁木通路は、柱の間から桜並木と山を眺められる、景観の余韻を楽しめるアプローチ空間。



連続する雁木と玄関

玄関天井は雁木通路と同じように天井・床を暗く色彩を抑えることで屋外と屋内をシームレスにつなぐ。



外部と内部の分岐点である床の間

玄関の突き当たり位置する床の間空間は外部空間の終わりと、内部空間の始まりであり、身体スケールの小さな設えは内部へ優しく招き入れる。